

特集
防災について
考える

昨年は28カ所の山崩れが発生

いつやってくるかわからないのが災害です。

今までに発生した災害で町に大きな被害をもたらした代表的なものは、昭和46年の「秋雨前線」と台風25号による異常気象、昭和62年の「千葉県東方沖地震」、平成3年の「台風21号及び秋雨前線による長雨」とがあります。私たちは、災害がいつ発生しても、自分の生命と財産を守り被害を最少限にいくとめる必要があります。そこで、今回は防災について考えてみたいと思います。

万が一に備えることが大切

近年は地震による災害が叫ばれていますが、私たちの町では、今月下旬から台風シーズンを迎えます。

昨年は何度となく台風が襲来し、特に、10月11日から13日にかけての「台風21号及び秋雨前線による長雨」の際には、28箇所の山崩れが発生し、住家の半壊や一部破損を受けたほか、確認された床下浸水世帯も42戸

に及びました。また、田畑はいたるところで冠水し、農作物（主に秋冬ネギ）も被害を受けました。

その間、町は災害対策本部を設置し、職員と消防団員は昼夜をとわず、床下浸水世帯の水汲み及び土のう積み、栗山川や山崩れ危険箇所の巡回などを行い被害を最小限にいく止めることができました。

しかし、災害対策本部を設置しても限界があります。そこで、日頃から各家庭ごとに予防を行い、万が一の場合に備えることが大切です。

風水害に備える

- 気象情報をよく聞き、早めの手を打つ。
- 不要不急の外出や旅行は

- 中止する。
- 停電に備え照明の用意をする。
- ベランダの小物を取り入れる。
- 物干し等が飛ばないようにする。
- 家の周りのいろいろなものを取り入れたり固定したりする。
- 断水に備え水をストックをする。

- 低地では浸水に備え、水中ポンプ等の用意をする。

昨年の台風21号及び秋雨前線による長雨の時に発生した山崩れ（写真上）と冠水したスクールライン（写真左）

